



Serial number 359

第9話

週刊 タバコの正体

タバコを吸うと煙とニオイがあたり一面に広がり、周りの人に健康被害を及ぼし不愉快な思いをさせます。それがすなわち受動喫煙なのですが、煙とニオイ以外の物も発生しますよね。そうです、タバコが燃えた後の“灰”と“吸い殻”です。

ニオイはもともと目に見えませんが煙もすぐに見えなくなりますが、灰と吸い殻はいつまでも目にとまります。たとえば喫煙所に設置されている灰皿には、次から次へとタバコを吸う人が灰と吸い殻を捨て続けます。すると、いつか灰皿は一杯になるのは当然なのですが、そんな灰皿はいったい誰がいつ掃除しているのでしょうか。

そう言われれば、商業施設や公共施設などで制服を着た清掃員が灰皿をきれいに行っているのを見た事はありませんか。大きな施設では専任の清掃員を雇っているところがほとんどなので、その人達が定期的に掃除してくれているわけです。一方、そんな清掃員がいない所の灰皿はどうなっているのでしょうか。きっと誰かが掃除してくれているはずですが、そうでなければ、満杯になったまま放置された灰皿はそれ以後使えませんからね。

ところで、世間の喫煙者のなかには灰皿がないところでタバコを吸う人も多いですよね。歩道を歩きながらとか、交差点で信号を待ちながらとか、街かどで立ち話をしながらとか、手にしたタバコの灰を無造作に指さきではたき落とし、吸い終わった吸い殻も足元に捨てて踏み消したり、近くの溝や排水溝に投げ捨てる光景もよく見かけます。そうしたタバコのゴミはどうなってしまうのでしょうか。吸い殻を捨てた人たちはそんな気遣いをしているのでしょうか。

日本におけるタバコの年間販売本数は約2000億本だそうです。という事は毎年2000億本もの吸い殻が発生しているのです。2000億本の吸い殻ってどのくらいの量になるのでしょうか。1本1グラムだとして計算すると重さにしてなんと20万トンになります。ちなみに、和歌山市の発表によると平成22年度のゴミ排出量は15万7千トンだったそうです。比べて見ると膨大な量だということがわかりますよね。和歌山市が出すゴミの1年以上もあるのですから。

いかがでしょうか。タバコは本人にも周りの人にも健康被害を与えるばかりではなく、吸い終わった後も、その灰や吸い殻の後始末が必要となり、社会全体の負担も増やしている事に気がつきませんか。これから社会人の仲間入りをする皆さんは、こんな事情を理解したうえでタバコを吸わない大人になって下さい。

産業デザイン科 奥田 恭久